

聞き手を意識する返歌創作の授業

古田 尚行

本稿では従来行われている短歌学習の2つの流れ、即ち鑑賞型の学習と創作型の学習とを発展させて融合することを狙いとした実践である。その際に短歌に対する返歌のグループ創作の活動を行うこと、そしてTEDTalks等を視聴することで表現についての評価規準を学習者自身が作り、それらをクラスで共有化してプレゼンテーションをして相互評価を行う単元を設定した。

結論として、聞き手への意識は重要であるという認識は培われたが、実際にその認識を活かしていくことには課題が残った。

1 はじめに

(1) 短歌をどのように学ばよいか

錦仁は短歌について次のように述べている。

一般に江戸時代までの五七五七七の歌を和歌といひ、明治三〇年頃の和歌革命運動以降の歌を短歌とよびならわしている。だが、どちらも五七五七七であるからには、革命後の短歌でさえも、古代からの歌の歴史の中に生起している。歌人たちが歌の歴史を強く拒否して創作することは可能だが、そうして生まれた短歌ですら、ある種の読者の目にかかれれば、古代からの歌の歴史の中でながめられ、理解されてしまう宿命をはらんでいる¹⁾。

たしかに短歌は「ある種の読者の目にかかれれば、古代からの歌の歴史の中でながめられ」る、すなわち短歌は伝統の影響を受けざるをえないものだといえるが、もちろんこうした伝統に従うだけではなく歌人は「歴史を強く拒否して創作」してきたはずである。ここからすぐに歌人の感性や表現の独自性にスライドさせることには問題が残るが、何らかの形で「誰かが何かに触れて言葉に託して表現された想い」を受け取ることは短歌学習においてはまずもつて必要なことのように思う。

短歌の授業には大きく二つの授業の流れがある。一つは調べ学習等で短歌やその作者に関わる情報を集めてまとめていく鑑賞型の授業である。これには授業者が講義調で教授していく授業も含まれる。もう一つはいくつかの短歌の鑑賞をした後に短歌の伝統的な技法やその表現効果や読み方を学び、これら

を活かしながら創作に結びつけていく創作型の授業である。これらのいずれがよいかは学習者の実態や授業の狙いに応じて決まってくるので一概に評価はできないが、前者に関しては受身的になりがちになり、参考にした誰かの解釈や鑑賞に引きずられて個の読みが薄くなる。また、出会う短歌の数は少なくなる。後者は創作が目的となって短歌との出会いが希薄になる。授業においてこれらの課題を乗り越えるためには短歌やその作者との出会いの場を設定し、なおかつそれらを踏まえて主体的に創作をさせていく必要がある。

(2) 表現力をどのように伸ばせばよいか

表現力は「話すこと」と「書くこと」の活動において育成される。しかし、ただ表現の量や機会を増やせばよいものではなく、当然発達段階に応じて何らかの質的なレベルを考慮しなければならない。この「質的なレベル」には様々なものが考えられるが、その際に重要な視点として「宛先」がある。成瀬尚志は大学のレポート課題に関して次のように述べている。

私たちが文章を書くとき、通常その文章には「宛先」があります。私たちが毎日のように書いている「メール」でももちろん宛先があり、その宛先となっている人の顔を思い浮かべながら文章を書きます。こんな表現を使ったら喜ぶだろうか、ひょっとして気分を害するかも、あるいはこれではわかりにくいかな、と文章の工夫は読み手を具体的にイメージすることと強く関係しています。逆に、なんらかの原稿を依頼されたにもかかわらず「想定読者」が

設定されていないなら、どのように書けばよいのかわからなくなるのではないのでしょうか²⁾。

つまり、表現の宛先である読み手や聞き手への意識が表現を、もっといえば表現者のモチベーションを高めていく重要な要素となる。学習者の表現の中で、それを聞き取りやすい声で、内容も理解のしやすい原稿を作って発表してもどこか空疎な印象を受けるのは、多くは宛先を意識していないことに起因する。表現力を伸ばしていくための基本はまずは読み手ないし聞き手への意識だということから始めてみたい。

(3) 返歌の創作を発表する

以上のことを踏まえ、次のような授業を構想した。

- ①15首の短歌をそれぞれ3～4名のグループ毎に担当する。
- ②その短歌について調べる。(調べ学習)
- ③そして担当の短歌に対する返歌をグループで創作する。(返歌創作)
- ④短歌の鑑賞とその返歌をプレゼンテーションする。(評価の作成、発表)
- ⑤相互評価をしてまとめる。

従来の短歌学習に新たに加えた活動は③の返歌創作である。返歌とは歌に対する、あるいは〈わたし〉から〈あなた〉への応答である。元の短歌の世界や表現を踏まえなければ、返歌は成り立たない。この活動を入れることによって単なる鑑賞に終わることを防ぐ狙いがある。また、同時に短歌という形式を擬似的にはあれ創作体験ができる。

そして、表現の仕方と「質のレベル」を考えるために④でTED(Technology Entertainment Design)主催のプレゼンテーション(TEDTalks, TEDxOsaka)の視聴を組み入れた。

2 表現への評価の作成—TEDの活用

プレゼンテーションを教育していくためにTED Talks等の活用の報告や分析はいくつかある³⁾。ただし、国語科教育においては積極的に活用されているとはいえない。

そこでは何がよい表現であり発表であるのかが既に授業者に設定されていることが多く、これは確かに有効だといえるが、本実戦では一般に優れたと考えられているプレゼンテーションを学習者がどのように受け取り、どのような表現者としてあればいい

のかを個人で考え、それをグループ毎でまとめ、さらにクラス全体に共有された評価の規準とした。

具体的には動画サイトで3名のプレゼンテーションを視聴する課題を出した。その内の2名は授業者が指定し、残り1名は学習者個人に選ばせた。授業者が選んだのは山本恭輔、テイラー・ウィルソンの2名のプレゼンターである⁴⁾。この2名を選んだのは、5分前後の短い動画であることと学習者の年齢と近いことからである。また、母語が日本語である人物を指定することも有効であると考えて組み入れた。もちろん、国や国籍を問わず同じ年代のプレゼンターのプレゼンテーションを観ることは刺激的である。なお、動画は英語であるが日本語字幕が付いている。

学習者がまとめたものを列挙すると以下のようになる。

- ①声の大きさ・質・強弱
- ②表情(目線の位置・笑顔)やジェスチャーの豊かさ
- ③間の取り方
- ④話の内容・深さ(よく調べているか)
- ⑤返歌の出来

①～③が表現面、④⑤が内容面への評価である。ただし、冗談や比喩、具体例(自分の経験談等)などを組み入れるとよいというグループもあり、それらは表現面と内容面とに明確に分けることは難しく④に含めた⁵⁾。全てのグループが重要だと挙げていたのが聞き手への配慮であった。

3 短歌／返歌創作の意義

学習者は俳句や短歌について触れたことはあるが、五七五や五七五七七の文字数、あるいは俳句であれば季語を入れるという程度の知識を有しているだけである。様々な表現技法を学ぶことも重要であるが、技法にこだわってしまうと歌に込められた「想い」がどうしても後退してしまう。

以下は歌人の俵万智と歌手の一青窈が短歌について対談をしている場面である。少々長いが引用する(傍線部=稿者。以下同)。

一青:万葉集の「ま」も知らずに、テストの点をとるためだけに覚えていたことだけで、短歌をつくることに取りかかるためには、もっとしっかり勉強しなくてはいけないんじゃないかと思ったんです。

俵:まあ、なんという誠実な(笑)。そういう気持

ちで誰もが歌を作り始めればねえ(笑)。その気持ちはすっごく大事だと思うんですけども、一方で短歌ってというのは今の自分の気持ちを表すひとつの表現方法なんです。五七五七七以外は決まりがないんです。俳句には季語というのがありますが。私も学生時代に佐佐木幸綱先生に会って最初に言われたのは、五七五七七以外は決まりがないよっていうことだったんです。でも作り始めると、今までの人はどんな風に乗っていたのかなって興味が出てきますよね。その過程で、こんなやり方もあるのか、と。作る側になって読んでみると、ただの読者とは違う視点でみられるから、それは作り始めることと並行して、いろいろと読んでいくっていうのがいいと思うんですけどね。

(…中略…)

一青：どうしてもとりあえず書いてみようと思って書くと、へえ、だからどうした的なものに陥りがちで、そうじゃなくて何かふくらみをもたせるためにはどうしたらいいんでしょうか。

俵：自分の“想い”を出発にすることじゃないかと思えます。例えば、旅の歌は素材がたくさんあるから、作りやすいといえば作りやすいのですが、浅いところでまどまどしてしまうと、絵はがきや旅行のパンフレットみたいになってしまいます。短歌って何も書いてなかったら主語は“私”なんですね。だから、その風景なり出会ったものなりに自分がどう関わったかということがひとつないと、その人のオリジナルな歌というのは、成立しにくい⁶⁾。

短歌を創作することの意義には俵も述べているように読者から表現者の立場に身を置くことによって、表現に対して意識が高まることである。短い字数であるがゆえに言葉の選択をせざるをえない。そして、何らかの「想い」がそこにはあり、「想い」を言葉に変換していくことの難しさも同時に学ぶことができる。

それでは、本実践に取り入れた返歌創作は従来の国語科の授業ではどのように扱われたのかというと、それほど数があるわけではないが、近藤真は俵万智の『サラダ記念日』所収の恋の歌を本歌としてそれに対する相聞歌を中学生に作らせる実践を行っている⁷⁾。『サラダ記念日』の中の「君」になりきって返歌を作る授業である。近藤は以下のような評価の観点を設けている。

- 1 「君」になりきっているか。
- 2 本歌における情景や作者の心情を正しく理解したうえで作っているか。

- 3 本歌との「対話」が成立しているか。
- 4 以下のようなよさがひとつ以上あるか。
 - ①形式(三十一字)が整っている。
 - ②本歌の読み手に対するやさしさ、思いやりがある。
 - ③きらりと光る表現がある。
 - ④なるほど、と納得させるような表現がある。
 - ⑤質の高いユーモアがある。
 - ⑥ほかの作品にないその人らしさがある。

相聞歌という恋の歌を中学生が作成することの懸念はあったが、実際の生徒の反応や作品はその懸念を大きく上回るものであった。

『サラダ記念日』は学習者との距離が比較的近いこともあり、それがこの授業が成立した理由の一つであるが、本実践には近代短歌も含まれている。また、テーマも自己や歴史、未来、死など多岐に渡っており、選んだ短歌によっては容易に返歌の作成が困難だと思われるものもある。学習者に差し出す教材の選定に課題があるが、本研究ではそれらの短歌をどのように学習者が受けとめるのかを調査する狙いもある。実際に学習者が作成した返歌についてみていく中で考えてみよう。

4 返歌創作の実際

(1) 学習者の作成した返歌

対象は中学2年生46名の2クラス、使用した教科書は学校図書『中学校国語2』であり、この中に収められている短歌15首を教材とした⁸⁾。教科書の分類では「心と自然」、「青春と歌」、「歴史と社会の中で」、「家族と命」となっている。後述する短歌の番号では①～④が「心と自然」、⑤～⑧が「青春と歌」、⑨～⑪が「歴史と社会の中で」、⑫～⑮が「家族と命」が対応している。3～4名のグループを作るにあたっては、男女が必ずそれぞれ1名はいるように心がけ、表現が苦手であったり国語の力に困難があるグループにならないように配慮した。

さて、返歌作成の前段階として調べ学習がある。しかし、草地宇山や平井弘のように歌人によってはその情報が図書室にないこともあったため、情報教室でウェブ上で資料を集めることも調べ学習として含めた。逆に、石川啄木や斎藤茂吉などの歌人については情報が多すぎるのが問題として残った。

以下が本歌とそれらに対する学習者が最終的に作成した返歌である。

【資料】短歌15首と学習者の作成した返歌一覧

* 傍線部は本歌の表現が使用されている箇所である。また、各グループの創作意図も載せた。

- ① くれなるの二尺伸びたる薔薇の芽の針やはらかに春雨のふる 正岡子規
A 薔薇の芽に魅かれ近付き芽を摘めばくれなるに染まる手の平
* 正岡子規が当時寝たきりだったので美しいバラをみてさぞかし取りたかっただろうと思って代わりに取った。手を紅に染めて紅のバラとの一体感を出した（誇張してます）。返歌では正岡子規に視点をおいて書きました。
B 新緑の青葉が茂る薔薇の茎かすかに香る夏の訪れ
* 私たちの担当した短歌は、春のバラの様子について詠んでいます。だから返歌は季節を少し後にして5月あたりの新緑の時のバラの様子をイメージして書きました。バラの青葉の生き生きとした感じを出せて良かったです。
- ② 秋草の直立つ中にひとり立ち悲しすぎれば笑いたくなる 道浦母都子
A 秋草もいつかは土の糧となるあなたの悲しみだってきつとそう
* 道浦さんの悲しみは泣くのを通り越して笑ってしまうほどの深いものだと思います。そこで、どんなに深い悲しみでもきつとあなたの人生を豊かにするものになると伝えたいと思いました。「秋草が枯れる」ことを「悲しみ」、「土の糧になる」（新しく生えてくる草の栄養になる）ことを「人生を豊かにすること」と重ね、最後の「きつとそう」でまとめることで限られた字数の中に収めようと思いました。
B 日陰の君いつかはきつと日向へと曲がった草も伸びると願う
* 道浦さんの短歌には、自分と対照的なものを「直立つ秋草」と比喻で表されていたため、私達も比喻で表すことにしました。「日陰の君」というのは道浦さんの短歌でいえば「悲しんでいる自分」であるから悲しいことがあってもいつかはきつと楽しいことがあると励ましの意味をこめています。そして後半も道浦さんの歌とかけていて、曲がった草も伸びるのだからという意味にしました。
- ③ 振りむけばなくなりさうな追憶のゆふやみに咲くいちめんの菜の花 河野裕子
A 前向けばいつか来たる春の日の澄み渡る空いちめんの菜の花
* この返歌は暗いワードが入っている河野さんの歌から伝わってくる暗さを明るくしたいと思い、明るい言葉を入れました。また「前向けば」のところを「振り向けば」とかけていて、対になるようにしました。
B 前むきて日も出てくれば見えるもの飛びさかる蝶菜の花の中
* 暗い歌だと感じた自分たちは励ましの歌を送ろうと暗い部分を反対の言葉にして明るさを表現しました。ただ単に反対にするとうまくまとまらず変だったので、少しずつ書き換えたり加えたりした。
- ④ 馬にでも喰はれてしまへ呵呵呵呵と笑ひ大屋根を越えてゆく雲 永井陽子
A 鳥にでも喰はれてしまえお前こそ呵呵呵呵と笑ふ大屋根の下
* そこで馬鹿にされたとしても、気にせず言い返せるほどの強い心を持つとうというメッセージを込めました。また、馬にでも喰はれてしまへという面白い雰囲気と同じような感じで書きました。
B 馬にでも蹴られてしまえ呵呵呵呵と小さな屋根から見上げる人々
* もとの短歌の人の目線でかいているのを逆にして、雲の目線でかいてみた。人が雲にうらやましさを劣等感を抱くのと同じで、雲も人にそういうものを感じているのではないかと考え、このような返歌にした。
- ⑤ 不来方のお城の草に寝ころびて／空に吸はれし／十五の心 石川啄木
A 今はなき十五の心に呼びかけて九年たつ今何を思うか
* この短歌は十五のころを思い出してつくられた回想歌である。だから、短歌の中では二十四になった「今」については何も書かれていない。十五のころを懐かしんでいるが、九年経つ今何を思っているのかということを啄木に問いかける返歌にした。おそらく、啄木は二十四のころ、とても大変で忙しかった

と思う。だからこそ、十五のころの自分が懐かしくなって、この返歌を歌ったのだろう。そんなことも考えながらこの返歌にした。

B 今はまだ行く先みえぬ十四才青空みあげて明日を想う

*担当した短歌を啄木が作ったのは24歳の時で、15歳をふりかえる歌であるが、自分たちはまだ13、14歳なので人生をふりかえることは早すぎると思ったので、自分の将来について書くことにした。

⑥ 困らせる側に目立たずいることを好みき誰の味方でもなく 平井弘

A 何もせず動かぬ者を責むれども自ら動く者などおらず

*「少年の喪失」によって正義を貫けなくなってしまったことを重く受け止めている作者を励まし、「少年の喪失」というのは誰しもの通る道であると語った。

B 立場だけ強いというのは強くない私自身が強くなければ

*処世のための立場ではなく、心から自分本来の強さを表せたら、私は強い人になれるだろうかと、汚れた所を受け入れつつ、真っ直ぐに憧れを見つめている。

⑦ 観覧車回れよ回れ想ひ出は君には一日我には一生 栗木京子

A 今日こそは想いを伝えるどう言おう夕日が沈む二人をおいて

*二人は観覧車に乗り「我」は「君」に告白しようとして言い出せないところだと解釈しました。倒置法を使って「夕日が沈む二人をおいて」の意味であるその時間は誰にも干渉されないことを強調しています。

B 君をのせ回る想いの片隅に我が秘めごとは君に届かず

*私たちの返歌は相手に自分の気持ちが伝わらない悲しみを表しました。

⑧ わがシャツを干さん高さの向日葵は明日ひらくべし明日を信ぜん 寺山修司

A 明日こそ信じ続けるあの空に大輪のはないつかはひらく

*明日花が開くと信じようという短歌に答えて、いつかは花は開くから信じて待っていようという前向きな気持ちを込めました。「空」や「大輪の花」という言葉を使って明るい情景がイメージできるようにしました。

B 夏の暮れ共に枯れたる情熱は儂きけれどまた巡りける

*花言葉で作者の感情をたとえることで、作者のひまわりへの気持ちを強調している。夏の終わり、ひまわりが枯れ、作者の心情を枯れるように落ち込んでしまうだろうが、新たな種を植え、次の夏を待つ作者を表現する。

⑨ た、かひに果てにし子ゆゑ、身に沁みてことしの桜あはれ散りゆく 釈道空

A 亡き息子思えば心苦しくも桜の木には若葉萌え出る

*短歌では桜が散るという表現がされており、それははかなさや悲しさを表しているの返歌では「若葉」という言葉を使って、桜が散った後の木に若葉が出てきてまた新たな姿に変わっていくことを表し、その木のように明るく元気に頑張りたいという思いを込めた。

B 戦いに果てにし子ゆゑ、一心に剣戟振れば悔いは残らぬ

*釈道空は弟子が戦死してしまったことを悲しんでいるので「国のために一心に戦ったのだから後悔はしてないと思うよ」というなぐさめの意味をこめて作りました。

⑩ 遺棄死体数百といひ数千といふいのちをふたつもちしものなし 土岐善磨

A 数じゃない命の重さはみな同じふたつもてない大切なもの

*作者に賛同して「命を2つ持つものはない」ということを少し形を変えて言っている。

B 生きる者数万といひ数億といふいのちをふたつもちしものなし

*本の短歌が死体を見て、命の大切さを訴えているのを見て、返歌でも命の大切さを伝える所は変えちゃいけないとおもったので「いのちをふたつもちしものなし」はそのまま残しました。あと、死ぬことをあれこれ考えるより、生きているうちの今の人生のことを考えた方が良いと思い、生きる者という始まりにしました。

- ⑪ おお！偉大なるセイギがそこに満ちてゐる街路なりこの日本の街路 萩原裕幸
- A 争いは互いの正義が引き起こすあゆみあいこそ平和の街路
* 作者は聞き手に正義とは何かを考えてほしいと思ったので正義について考え、それを表した。お互いに歩み合うことこそが平和にするために必要だという意味を表している。
- B この世界互いのセイギゆずらねば世界が平和に近づくために
* 返歌の「この世界」には今の己の正義を全うしようとして戦争が起こっている世界という意味で、世界が平和に近づくためには、この世界で全うしようとしているセイギを譲ることも大切だという意味にしました。
- ⑫ 死に近き母に添ひ寝のしんしんと遠田のかはづ天に聞こゆる 斎藤茂吉
- A 厳肅な響きも深き夜にこそこれまでの母思いかみしめ
* 臨終に近い母に添ひ寝している作者の気持ちをなぐさめるような返歌にしようと思い、これまでの母との思い出を思っているだろうと思ったのでその返歌にしました。
- B 死す命昇りし天を見上げても手も届かぬ声も届かぬ
* 斎藤茂吉さんの母がもうすぐ亡くなろうとしている時に、作者がどれだけ悲しかったのか、母を亡くしたことがない私たちにはよくわかりませんでした。だから、慰めようとするよりも作者の今の気持ちについて詠む方がよいかと思い、この句にしました。
- ⑬ 眠られぬ母のためわが誦む童話母の寝入りし後王子死す 岡井隆
- A 本閉じて寝入る母を包み込む死なぬ王子の勇ましき夢
* 短歌についてその続きまでよく考えてつくりました。そして、よい展開になることも願い作りました。
- B 王子の死知らぬあなたの寝姿を見つめる私は安堵と寂しさ
* 作者が眠っている母を見て童話の王子と母を重ね合わせて、母の死が近いのではないかという寂しさをもっていることや、母が最後まで聞かないで寝たことで死を意識しなくてよくなったことに対する安堵の気持ちを持っていることを表しました。
- ⑭ 母逝くと吾子のつたなき返しぶみ読みて握りて耐へてまた読む 草地宇山
- A 母亡くし父へのつたなき返しぶみ言葉書きつつ涙あふれる
* 「つたなき返しぶみ」をキーワードとして返歌にも取り入れた。父の立場を子の立場に変えて詠んだのはリズムを作っていていいと思った。最後の「涙あふれる」のところが難しいように感じた。
- B ありがとう君の最期に一言を遅れる今を守っていきたい
* 作者は太平洋戦争後に捕虜になり、なかなか日本に帰れませんでした。そんな時、日本に残してきた子供から妻が死んだという手紙が届きました。大切な人の死に目にも会えないような荒れた世界に生きた作者がかわいそうでした。今は平和な世界となり、人情を大切にできるようになっています。このような平和な世界をつくってくださった人々に感謝するとともに、この平和を守っていこうという思いで、この返歌を作りました。
- ⑮ のぼり坂のペダル踏みつつ子は叫ぶ「まっすぐ?」、そうだ、どんどのぼれ 佐佐木幸綱
- A 時たてばじき親離れ別の道一人こぎつつ人生の坂
* 僕たちは、自分の子供のことをその子の親がとても心配しているように思えたので、その親に安心してもらえるような、優しい返歌にしようと考え、その子が自力で苦しい道を進めるようになる句を作ろうと思い、ひとり立ちする句を作りました。
- B 子の成長私の手から離れてく嬉しさと共に寂しさもある
人生を進み進んでふと迷うその時父の言葉リフレイン
* 私たちは2つの返歌を作りました。この2つを並べて私たちが考えたことは、親は子供が自分の手から離れていくと感じているが、子供が生きていく中で親の言葉は心に残っているということです。

(2) 返歌分析

返歌作成の際には、先の近藤の評価の観点である「2本歌における情景や作者の心情を正しく理解したうえで作っているか」を提示した。もっと具体的な指示としては、「言葉の裏側には感情があり、どのような言葉がその感情を支えているのかに注意すること」というものを出した。

それぞれ個別的な分析は紙幅の関係で割愛するが、返歌を創作する時にみられた傾向を述べる。

①本歌の表現を用いる

これは当然といえば当然であるが、一般的な単語レベルからその歌で核になるレベルまでである。後者に関しては、③Bや④AB、⑨B、⑩B、⑭Aがこれに含まれる。事後のまとめに返歌を作成した過程や最終的にある表現を用いたかをたずねたところ、「この表現は絶対に使わないといけないと思った」、「この歌では大事なところだと思った」などの回答があった。また、「言葉のつながりや結び付け方が独特だからここを基準にして歌を作った」などの回答があった。本歌の言葉を使わない場合、その歌で述べられたもの・ことをさらに問い深めていく傾向があったといえよう。

②作者の感情への共感と離反

言葉は思想の現れであり、歌には作者の感情が言葉に変換されている。その感情に対して、今風にいえば「いいね!」といって寄り添う場合と、深刻な状況における感情にはあえて「忘れてしまおう」という場合とがあった。後者に関しては、③の「振りむけば」に対してはA「前向けば」、B「前むきて」という表現にしている。⑫Bにしても母の死の雰囲気はただよう本歌に対して「手も届かぬ声も届かぬ」というやや配慮に欠けると思われる表現がある(ただし、意図を見ると今の作者の気持ちについて詠んだとある)。これとは逆に、⑬Aのように母を喪いそうな哀しみを、母が寝入った後に「勇ましき夢」を見たとして、前向きに捉え直そうという返歌もある。

③視点の転換

正岡子規の①のように何かの景物に感じた歌ではその景物を別の見方で表現していくことが多いが、④の雲視点から他になりきる歌や⑭ABのように残された者の視点、⑮ABのように子の視点の転換がみられる。なお、④に関しては「呵呵呵呵」と笑ったのが誰なのか、そもそもこの歌の世界がわからないというのが④ABの2グループであった。

5 プレゼンテーションの実際

プレゼンテーションといっても、TEDtalks 等のようにスライドを作成してワイヤレスマイクを用いて発表するのは準備時間の関係で行うことができないため、模造紙だけを使用することにした。また、別紙資料が必要となる場合には事前に作成をして提出させて印刷、配付した。

発表の際のルールとして発表時間は5分以内であること、短歌の鑑賞を含めること、返歌とその返歌にした理由を述べることの3点である。

そして、それを聞いた他の生徒は発表後に質疑応答をして、その後先の評価に従って評価をして、それを発表者に渡す。その渡された評価シートを発表者は読み、自分たちの発表内容も含めて単元全体のまとめを書く。

1時間に5グループの発表であり、回を重ねるごとに発表の質は高まっていった。具体的には声の大きさや視線や表情、原稿を手を持たずにその場で言葉を紡ぎ出そうとする学習者が増えていった。また、プレゼンテーションであるのに聞き手である学習者に問いかけて、そこから話を始めていく等の工夫をしたグループも出てくるようになった。

以下に聞き手からの評価を受けてまとめた学習者の振り返りを引用する。

①声の大きさや表情の評価が全体的に低かったです。自分では意識しているつもりだったけど、他の人から見たら全然だめだったのだと知りました。だから、思っている以上に意識してプレゼンテーションを行うことが大事だと思いました。

②模造紙を巻いて少しずつ文章を見せていくものが「演出」ととらえられていて「おもしろい」と言ってもらえたことがとても心に残りました。一行ずつ短歌を見せることで印象に残りやすくなったらいいなという考えてやったことなので、反応してもらえてうれしかったです。また、プレゼン中に前を向けていないなと思っていたら評価シートにもそのようなことが書かれていたので、素直に「改善しよう」と思うことができました。

③成功だったのはあえて原稿を作らなかったことです。周りの班が結構作っていたので私たちも必要かなと思ったのですが、原稿を読むのに抵抗があったので、大まかな内容を決めて後はアドリブでやりました。だから、語っている感じがしたというコメントが多く嬉しかったです。

④今回、私たちのグループは「目の前で返歌を書く」という発表方法を用いました。それに対して、聞き手からの評価では様々な考えが書かれていて、「新しくインパクトがあった」、「待つ時間が長かった」、「見て面白かった」、「少しグダっていた」などの意見がありました。これからの意見をまとめると「パフォーマンス自体はいいが、その間の時間を有効活用できていない」ということなので、パフォーマンス中も短歌の豆知識などを語るなどの工夫もしたら更に良くなると思いました。

⑤聞き手からの評価で、作者の人生をふりかえっているのがよかったという意見が多かった。短歌を説明するだけでなく、その短歌を作った人がどのような人で、どのような経緯で短歌が作られたのか、といったところまで伝えることができよかったと思う。

⑥聞き手の皆からの感想が、ほとんどバラけていなかったのが凄いなとまず思いました。大体の人の感想が「返歌が良かった」というのと「もっと顔を上げて大きな声で話した方が良い」だったのでそこを気をつけたいと思いました。また、他の感想で印象的だったのは、「笑いとおしみについての繋がりについてがない」というものでした。「よくある」気持ちだ、ということで片付けていた気がしたのでたしかになあと思いました。

6 成果と課題

本実践の成果を述べる。

1点目は、近代の短歌においても返歌創作という活動をすることで学習者は応答できる、すなわち近代短歌が今の学習者に響く教材としての力を持っていることが明らかになった点である。現代短歌だけに縛られる必要はない。

2点目は、TEDtalks等のプレゼンテーションを視聴することが学習者に与える影響は大きく、聞き手を意識することの重要性が振り返りの中で多く見られたことである。しかも、他のグループの発表を見ることが刺激となりさらによい発表をしようとした。

3点目は、2点目とも重なるところでもあるが、個人学習（動画視聴、調べ学習、振り返り）と協働学習（評価のまとめ、調べた結果の共有、返歌への意見集約・返歌の創造）と学習の中で個々の学習者は他の学習者に互いに良い影響を与えていることがわかったことである。

次に課題を述べる。

1点目は、本歌の情報量の差である。著名な歌人か人口に膾炙した歌かによって情報量に差が生じてしまい、結果として学習者は取り扱いに困ってしまうことが起きた。教科書に載るような短歌であってもである。教材選定の慎重さが課題である。

2点目は、担当する短歌以外の短歌への意識の希薄さである。単元終了後に確認のテストを行うなどによって、意識付けを促すことが必要であろう。パフォーマンスに気をとられてしまい他のグループの発表内容に注目することができなかった学習者が一定数いたので、内容に意識を向けさせるようなプレゼンテーションの工夫が必要である。

3点目は、個々の解釈における授業者の介入のことである。明らかに誤読とみなされている解釈（④の短歌）については何らかの修正を促すべきであった。

以下に学習者の単元全体の振り返りを引用しておく。

①数多くの短歌の説明を聞き、五七五七七の31文字の中に筆者の思いが凝縮されていることが分かりました。31文字という、決して多いとはいえない限られた文字数の中で、自分の気持ちを表現するということは、とても大切だとも知り、今回調べた15首の短歌は、一瞬で思いついたものや考えに考えて詠まれたものなど、様々なものがあるんだろうと思いました。これら様々な個性が詰まった短歌について詳しく調べると、その短歌を詠んだ筆者の性格や人物像なども浮かんできて、とても面白かったです。更に多くの短歌を読んで（詠んで）みたいです。

②今までこんなに1つの短歌の意味を考えたり情景を考えることはなかったし、返歌を考えるのも初めてのことだったので新鮮で楽しかったです。31字という短い中でいろんな人が過去のことや集団の立ち位置のこと、恋のことや家族との関わりなど、たくさんのテーマで人に思いを伝えていて、深いなと思いました。また、いろんなテーマの短歌に対するそれぞれの解釈の仕方やその解釈をもとにつくった返歌にグループの個性というようなものが見られた気がして面白かったです。

③短歌はいろいろな時代で詠まれているので、時代状況がわかったり、人々の思いや生き様がよくわかるものなのだとわかりました。植物などに思いを乗せて詠むとわかりやすいしカッコいいと思い、考えをそのままの言葉で歌にした自分たちの返歌はださ

いなと思いました。

④短歌の学習では自分の気持ちを短歌にして表す方法について学んだ。比喩などの表現方法を使うことによって、短い言葉の数でも沢山のことを伝えられるのかなと思いました。比喩を使うと抽象的に伝えるので、実際の伝えたいこととあっているのかわかりづらくて、多くの解釈を持てるのが大変だなと思いました。プレゼンテーションをした時は自分の解釈を伝える時は周りを見ながら話した方がいいということや声の大きさなどの調整も大切ということを学べた。今回のプレゼンテーションでは紙に書く時にわかりやすく書いていなかったで伝わりにくかったかなと思ったので、もっとわかりやすくすればよかったなと思いました。

⑤まずプレゼンテーションについて、事前にしっかりと準備をし、工夫して発表しなければならないことを学びました。今回のプレゼンテーションは反省すべき点ばかりでした。次にプレゼンテーションする機会があれば今回の反省点を活かして良いものにしたいです。また今回の経験はプレゼンテーション以外の場面でも活かせるものだと思います。人前で発言する時や何かの準備をする時、今回のことを思い出して頑張ろうと思いました。そして短歌の奥深さを知ることができました。音数の制限からうまれる洗練された感じでしたり、選びぬかれた言葉を工夫した技法を使って広げていたり、受け取る側にとっても考えさせてくれるような歌の力に感動しました。そんな力を持った歌だったので返歌を作るのは大変でした。もっと経験が必要と感じました。

⑥プレゼンテーションを行うことは、課外授業でもやっていたけれど、改めてきちんとやってみると、思っていたより難しかったです。どのような話し方をしたら聞き手を飽きさせないか、スライドはすっきりとしたものがいいか、詳しく書いた方がいいか、迷うことはたくさんありました。そして返歌を考えるのも大変でした。私たちの班は返歌に込める思いはすぐに決まったのですが、大切な人の死と平和という大きなテーマにぴったりの言葉を選ぶのは大変でした。また、せっかく作者が詳しく書いてるので手紙を読んで泣きそうになっても涙をこらえてまた読んだ筆者の気持ちを取りあげた返歌にするべきだったのかもしれないと思いました。

⑦何かを人前で読む時に笑ってしまうくせや、自分の言葉遣いのくせ、恋愛観のくせなど、じぶんのく

せが浮きぼりになって興味深かった。自分でも知らない面もあるのだなと知ってとても面白かった。人の考えに触れる機会は少ないので、自分同様に個人に特有のくせや性質を見つけられて楽しかったし、自分の考え方が深まったと思う。人の評価をすることも少ないので、人を良くみることでより深くその人を知ることができた。

⑧あまり短歌を深く読んだことがなかったので自分の担当した短歌について調べ、それが湾岸戦争につながり、セイギに対しての疑問という意味とわかった時には短歌を深く読むとおもしろいのだと感じた。また他の14首の短歌も他の班の発表によってそれにこめられた思いがわかり、短歌にはいろいろな思いがこめられているのだと改めてわかった。また作者によって様々な特徴を持っているというのもおもしろいと感じた。返歌をつくるというのは初めての経験だったがとても難しかった。まずどのような思いをこめてつくるのかということを考えるのが難しく、それが決まってもその思いを31音にこめというのが難しかった。それからプレゼンをする時には人に筆者の思いや自分たちがつくった返歌にこめた思いをどうすれば効果的に伝えられるかを考えた。聞き手を意識しながらプレゼンをするというのはとても難しく感じた。

注

- 1) 錦仁, 「はじめに一本書を手にする方へ」, 錦仁編, 『日本人はなぜ、五七五七七の歌を愛してきたのか』, 笠間書院, 2016年, 6.
- 2) 成瀬尚志, 「レポート課題を軸とした授業設計」, 成瀬尚志編, 『学生を思考にいざなうレポート課題』, ひつじ書房, 2016年, 80.
- 3) 中釜達朗, 市川隼人, 保科貴亮, 「TED トークを教材としたルーブリック評価による日本語プレゼンテーション教育」, 『工学教育』Vol. 63, 2015年, クリス・アンダーソン, 『TED TALKS スーパープレゼンを学ぶ TED 公式ガイド』, 日経 BP 社, 2016年等参照。

アカッシュ・カリアはプレゼンテーションで成功する秘訣として以下のように述べている
「記憶に焼き付くプレゼンテーションを行うための SUCCESS チェックリストは—

- ・ シンプルであること
- ・ 意外性
- ・ 具体性
- ・ 信頼性

- ・感情
- ・ストーリー

これがすぐれたプレゼンテーションの6つの要素である」(アカッシュ・カリア, 月沢李歌子訳『TEDに学ぶ最強のプレゼン術』, SBクリエイティブ, 2015年, 12-13.)。

4) Kyosuke Yamamoto : Modeling My Dream

<https://www.youtube.com/watch?v=pg63A6WaC-c>

テイラー・ウィルソン: うん, 核融合炉を作ったよ, <https://www.youtube.com/watch?v=9B0PaSznWJE&t=63s>

なお, 山本恭輔は自身のウェブサイトの説明によると中学校時代に「私は, 教育や医療, 障がい者雇用, 介護などの分野での最先端のテクノロジー活用について研究。特に医療現場における3Dプリンティング技術「生体質感造形®」の開発者杉本真樹医師との出会いに始まり, 私の14歳時の上半身の可視可触造形「(通称)スケルトン」を通じた活動は, NHKスーパープレゼンテーションの特番や, TEDxOsakaでのプレゼンテーションを通して広く発信」。

<http://www.ikyosuke.com/aboutme.html>

(閲覧日: 2017年1月4日)

また, テイラー・ウィルソンに関しては『理系の子—高校生科学オリンピックの青春』(Judy Dutton, 横山啓明翻訳, 文藝春秋, 2012年)に詳しい生い立ちが紹介されている。両者ともに学習者に紹介するに足るプレゼンターであると考えられる。

5) 他にも「質問や問いかけを組み入れる」, 「大切なことは数回言う」, 「分かりやすい資料にする」, 「要約する・短くまとめる」, 「リズム感やテンポを大切にする」, 「台本を見ない」, 「最後はありがとうで終わる」, 「作者の思いが伝わるようにする」等があった。

6) 俵万智, 一青窈, 『短歌の作り方, 教えてください』, 角川書店, 2014年, 20, 24.

7) 近藤真, 『中学生のことばの授業』, 太郎次郎社エディタス, 2010年.

他, 足立悦男, 「C読むことの学習指導の方法 / 3 詩歌の学習指導の方法」(全国大学国語教育学会編, 『新たな時代を拓く中学校高等学校国語科教育研究』, 学芸図書, 2010年, 95-99.)も参照。

8) ただし, 28年度版ではなく1つ前の教科書である。